



シロマの
ダンジョンダイアリー

for Adults Only



★モーグリ
チョコボの友達。
ヘンタイ。



★シロマ
この世界では珍しい
人間の少女。自身の
出生の謎を探るため
ダンジョンへ。



★チョコボ
巨大なヒヨコ。
物忘れが激しい。

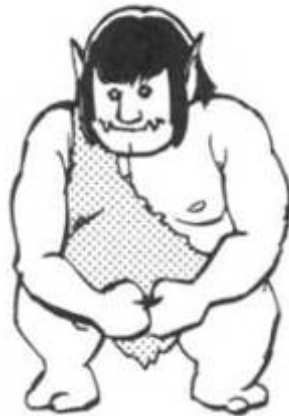
■キャラクター紹介■

「チョコボの不思議なダンジョン2」を知らない方、
あるいは忘れてしまった方のために簡単なキャラ紹介。
…でも登場してくるキャラがほとんどいなかったり…。



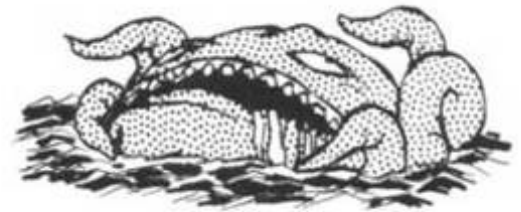
★ボムおばさん

シロマを拾って育ててきた
口は悪いけどやさしいおばさん。
三人の子ボムがいるが、息子たちの
しっつけはなっていない。



★オーガ

ダンジョンに棲息するロリコン
巨人族。得意技はスパンキング。



★オルトロス

巨海底遺構ダンジョンのぬし。
触手の化け物。



★デスチョコボ

デブなチョコボ。
シロマの幼なじみらしい。



★黒魔導師5人衆

村の研究所で黒魔術を
探求する5人組。
魔薬を調合するため、
生体エキスを飲しがっている。



★バハムート

時の番人。
“この世にあらざるもの”を
調査中。

6月8日
20:08
海底遺構ダンジョン地下15階

少女よ…
悪いことは言わん。
このまま地上へ
引き返すのだ

何かなんでも
知らねばならぬ
ことなどないのだ

それでもなお、
進むというなら…
知ることによって
失うものも大きいと
覚悟するのだ

待つて…
あなたは何を
知ってるの？

私にはまだ
見極めねば
ならぬことがある

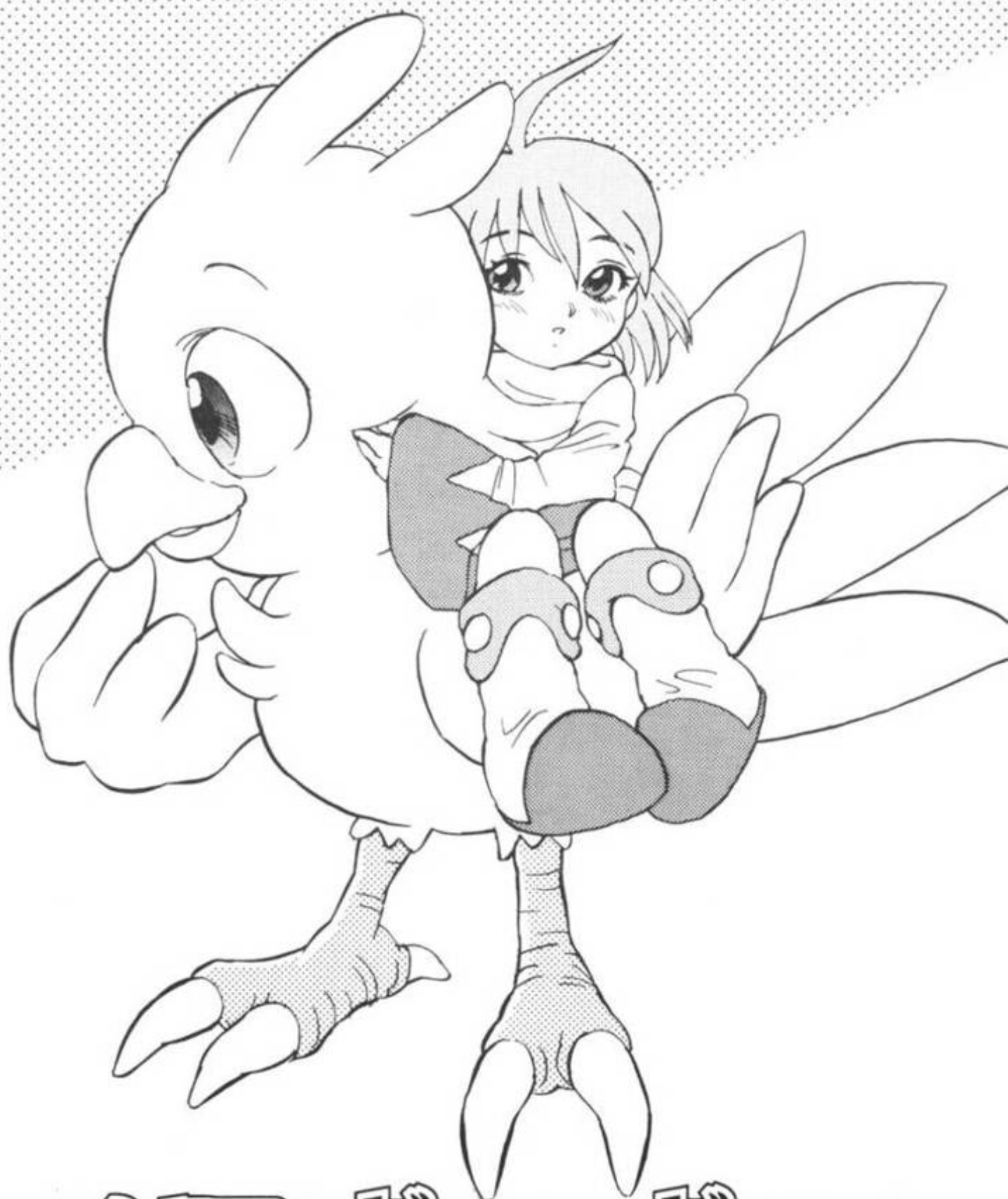
少女よ、
警告したぞ…村へ戻り
平穩に暮らすのだ

私は何者なの？
知ってるのなら
教えてちょうだい

行って
確かめる！

このダンジョンの秘密。
そして私が何者なのかを…！

私、行く…



シロマのダンジョンダイアリー



このあたりの
モンスターは
しつこいわね…

はあ

疲労もあるし、
テレポのしおりを
準備しておかないと…

はあ



あッ!!



村で「飯食へて
くるね!

シロマちゃん、
ボクおなかい
ちやっただヨ!

※ちよ、ちよっと
待ってよ!



「ジャキ」
う…



もう限界…

ポタ

チヨコ君、
早く戻って
きて…

ハッ



ああ…



ハッ



ハッ



うほほっ

お嬢ちゃん、
こんなところで
ひとり歩き?

白くってきれい
だねえ…おじさん、
がまんできないよ!

※「テレポのしおり」はこのようにパートナーを置き去りにするような消え方をします…









アッ

はあん

ハイハイ、
ドードー、
歩めよ仔馬…
…ってねえ

イッアッ
ああんっ

やあっ
あっあっ…

お、お嬢ちゃん
お嬢ちゃん
オオンコ、
最高だよおお
これえ…

うみう、ふう…
こ、これ終わったら
次はおじさんが
馬になるよ…うっうっ



同時刻 海辺の村
トンベリ食堂

アレエ？
なんか忘れてる
ような...

あー
食った食った



おことわり

今さら1998年に発売された「チョコボの不思議なダンジョン2」の同人誌を出すことになろうとは思いませんでした。本を出すまでに至った理由は、昨夏に開いた童話クラブのホームページの方で、シロマの意外な人気ぶりを実感したからに他なりません。

で、本を書いてもいいかな…と思ってぼちぼちゲームをやりはじめました。実はゲーム本編は、まだプレイ途中です。(場所的には中盤くらい?)というわけでこの同人誌に含まれているネタは、私がプレイした範囲でのパロディです。今後最後までプレイしてネタが出れば続編や追補版の可能性もないわけではありません。

それにしてもこのゲーム、ふつーの人がやって面白いと思えるんでしょうか? 世界設定が意味不明で、ストーリーも最低の部類と言えるでしょう。ましてや記憶能力の欠如した主人公(チョコボ)に感情移入などできたものではありません。唯一シロマだけ。シロマに対する萌え感情。それだけがこのゲームを支え、ゲームのすべてと言っても過言ではないかと思われまます。

そんなこんなでプレイ中はひたすらシロマへの妄想を迷走させることに全力を注ぎ込むこととなります。開発スタッフの方々もその辺はシッカリ分かっておられるようで…というよりも確信犯的にシロマに対するエロ妄想を助長する演出を折り込んでます。村人(モンスターたちが住人の村)から「人間だから」というだけで、いわれなき迫害を受けてたり、鑑定前のくすりの名称が寔にエロいものだったり、いろいろあるわけですが、なかでもタコのような触手を持った海底ダンジョンのボス「オルトロス」の登場のセリフが秀逸なのでそのまま引用してみます。

海底ダンジョンの最下層に降りてゆくチョコボとシロマ。

「げひひひひ……」

シロマ「ん?何か言った?」
チョコボ(首をふる)
シロマ「そうだよね…」

「お、おなごや、おなごや…。
長い間、まっとうたかいも、あったってもんや…」

「それにうまそうな鳥までつれてきるとは…
ついてきたでえ…わしも…」
「長い間ありつけなかったディナーや…
吸うたるでえ。
吸うってしゃぶってなめまわしたる…
このオルトロス様がぁ…」

…とても良い子のやるゲームのネームではありません。品性のカケラもない下卑たセリフまわしは、ほとんどエロゲーの世界です。

というわけで、今回の本では、ひたすら“エロ”を優先しました。本来はもう2,3エピソードやるつもりでしたが、時間的に無理でした…ご了承ください。(オルトロスとの戦いは絵物語、という感じでまとめました。)

長くなりましたが、「シロマのダンジョンダイアリー」。
お楽しみいただければ幸いです。



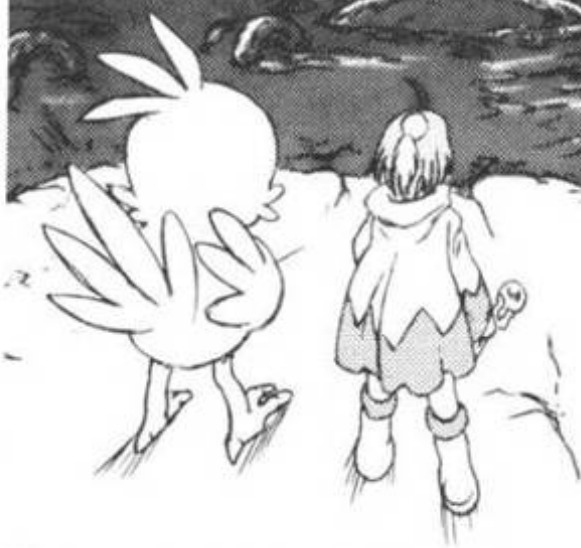
■シロマエキス抽出中

オルトロスとの戦い

二人が最下層に到着すると、
異様な臭気であふれていました。
そして水底から伝わる不気味な声…

おおおお・・・
ええええ・・・
まっていたぞおお・・・
ねぶりでええええ・・・
なめまわしてええええ・・・

次の瞬間、チョコボは強烈な一撃で、
ダンジョンから弾き出されてしまいました。
残るはシロマひとりきりです。
「いったいどこから攻撃されたの？」
シロマはうろたえますがあたりは真っ暗闇。
暗闇に水切り音がだけがこだまします。



ピシッ


シロマは脚を取られて
ひきずり倒されました。
敵が姿を現わします。

多数の触手を持った
オルトロスという名の
化け物でした。

「きゃああああ」

怪物は多数の触手で
少女の衣服を脱がしに
かかります。





シロマは必死に抵抗しますが、
相手は二千年も生きてきた化け物。
少女の細腕では、
あらがうべくもありません。
あつという間に
パンツを脱がされ、
吊り上げられています。

巨大な口から、舌とも生殖器ともつかない
醜悪な触手が顔を出しました。
かまぐびをもたげ、
少女の股間を品定めするように
嗅ぎまわりはじめました。


ついに丸裸に剥かれたシロマに、
オルトロスの舌が絡みつきます。
いやらしい粘液を分泌しながら
シロマの股間のクレバスに、
何度も何度も自身の凹凸を
こすり続けます。

どのくらいの時間が経ったでしょう。

すでに少女の声は切なげになり、
摩擦の接点からは、少女自身の蜜が
溢れるまでになってきました。

化け物は少女の反応に満足するかのように
少女の身体のすみずみをなめまわします。





ついに化け物は。舌を少女に突き立て
少女の内部に侵入をはかります。

シロマは痛みからか、衝撃からか、
あるいはその両方かも知れません。
悲鳴とともに失禁してしまいました。

「あっあっあっ……あああー」

怪物はその黄金水をうまそうに
飲み干すと、さらに少女の奥へと
侵攻を開始します。

ドクツドクツ ビュツビュツ

何度も何度も、上と下から、
怪物は液を放出します。

少女のお腹は、すでに
パンパンにふくれあがっています。
吐いても吐いても、それ以上の液体が
流れ込んでいきます。

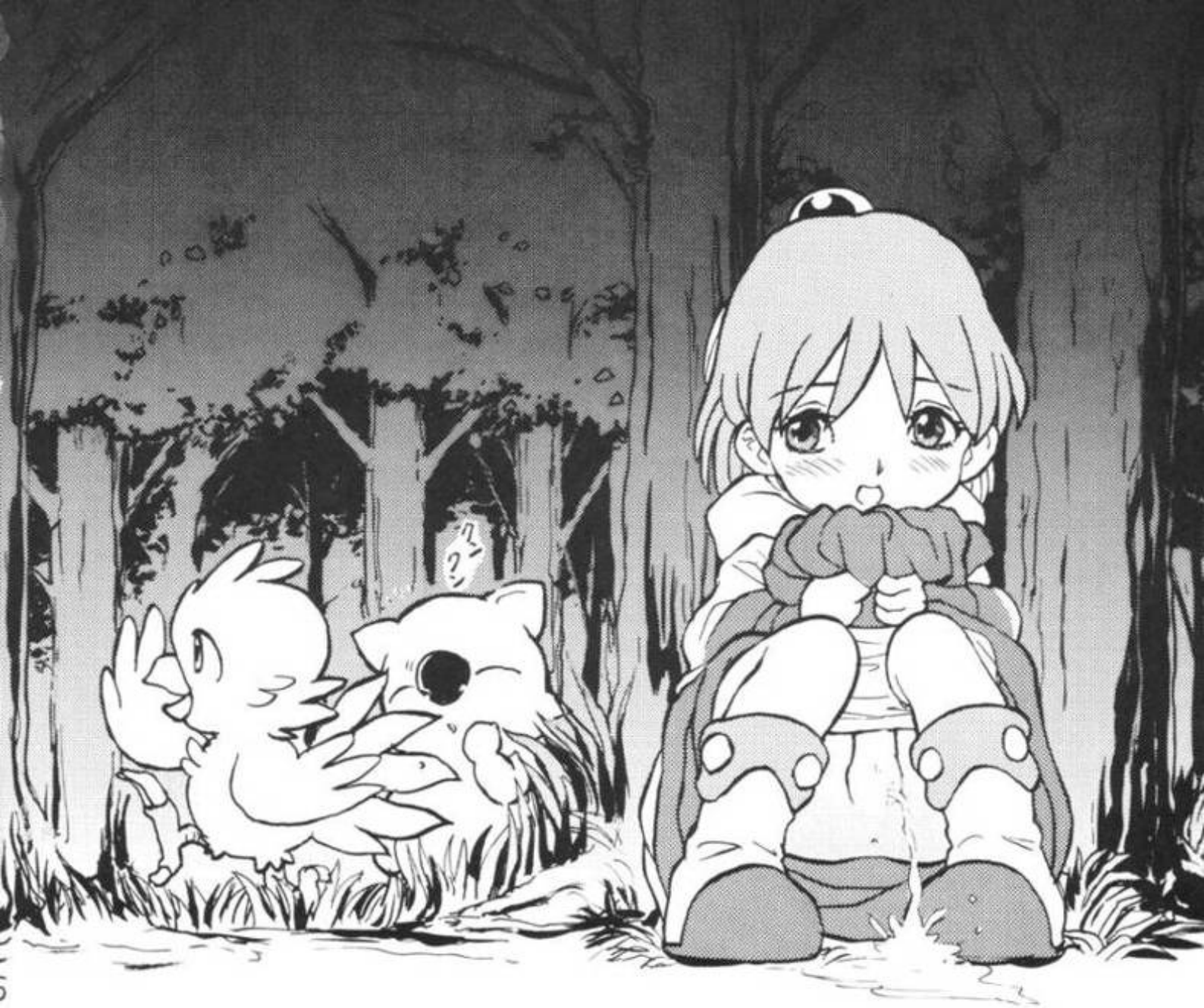
怪物が放出をやめる気配は
ありません。いったい何年ぶりの
獲物だったのでしょう？

そして少女への陵辱は、
果てしなく続きます。
次なる冒険者がここを訪れるその日まで…。

END







あとがき

…お楽しみいただけただでしょうか？

お買い上げありがとうございました。今回の本はいつも増してエロ度が高くなったと思います。描いていくうちに絵のエロ度も上昇し、過激になっていきました。上の絵が一番最初に描いた絵ですが…ぬるいです(笑)

いつも悩んでいることですが、下描き時にはエロエロだった絵が、ペン入れして消しゴムをかけたトーンを貼ると、エロ度が格段に劣化してしまいます。ただ単にペン入れが下手なだけかもしれませんが、多分にクリンナップされるせいで、余分な妄想をたくわえたラフなラインが払拭されてしまうせいだと思います。それならば下描きコピーを載せれば…とも考えますが、それはそれで未成品な感じで、難しいところです。

今回はいろいろ実験をしてみました。オルトロスのところはなかなかうまく（エロ度を落とさずに）仕上げられたかな？と思ってます。

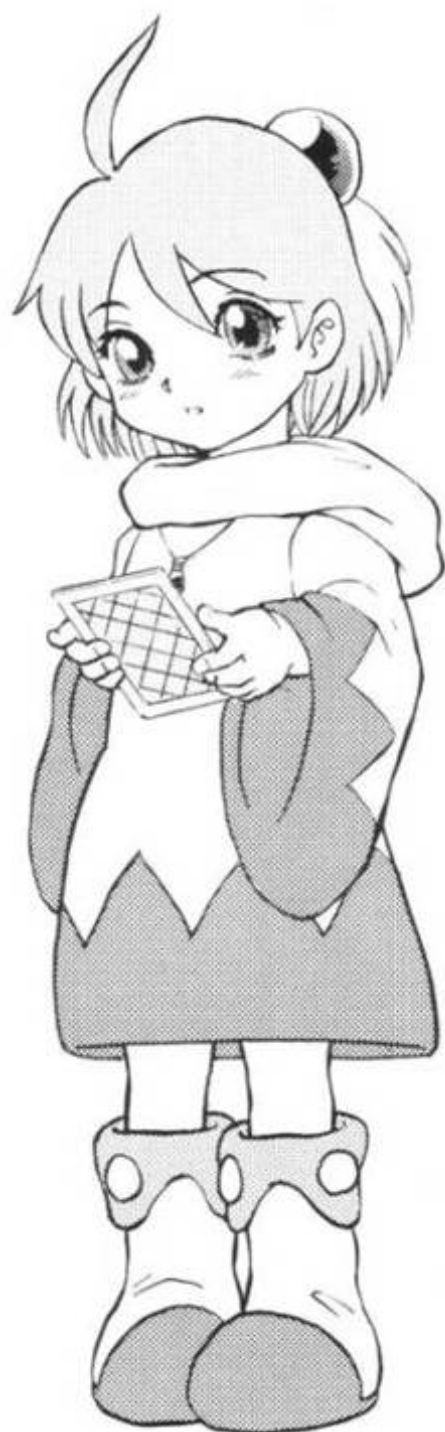
それではまた…。

未鑑定アイテムの楽しみ方



シロマとの出会い





シロマのダンジョンダイアリー

著者：きてい

発行：童話クラス

印刷：トム出版

2002年8月11日初版

童話クラスホームページ <http://www.dohwa.org>



Shiroma's Dungeon Diary

童話クラブ 2002